

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

税の使い道～イギリスと比べて～

本宮市立本宮第一中学校

3年 八下田 峻佑

私はこの夏、市内外の中学生10人と共に市の国際交流事業として、イギリスに5日間行ってきた。イギリスでは、現地の学生と交流したり、観光名所を回ったりした。いろいろなことをしたが、自分が払ったお金は、パスポート申請代金と、現地で買ったおみやげ代だけだった。もし自費でイギリスに行こうとしたら、20万円以上かかると思う。では、なぜ少しの金額で海外に行けたのだろうか。

それは、「税金」のおかげである。今回の事業には、私たちの渡航費以外にもたくさん費用が税金で賄われている。税金の使い道についてもっと知りたくなったので、少し調べてみることにした。

私たちに関わる国の税金の使い道には大きく三つある。一つ目は、年金などを賄う「社会保障関係費」。二つ目は、私たちが教育を受けるための「文教および科学振興費」。三つ目は、図書館などの施設整備や公務員の給与となる「公共事業関係費」がある。本宮市の歳出を見ると金額の大きい順に「民生費」「衛生費」「教育費」となっている。私たちの渡航には「教育費」から歳出されたのではないかと思う。

イギリスでは、買い物をしたときに「物価が高いなあ」と感じた。レシートを見ると、消費税が20パーセントとなっていてびっくりした。この高い消費税は主に、「社会保障費」に充てられるという。日本の消費税は現在8パーセント、同じく年金、医療、介護、子育て支援の「社会保障費」に充てられている。特に年金受給者が急速に増加しているため、不足分は国債を発行して充当されている。ここ数年、消費税を10パーセントに引き上げる政策が何度も延期されているが、不況による税収減、1兆5,000億

円もの莫大な国債の額から見ても消費税10パーセント増税はやむを得ないのではないかと感じた。

今回の研修で、ロンドン大学で教授をしている日本人の先生のお話を伺うことができた。そのお話の中で、「日本は諸外国に比べ海外留学をする学生が少ない。」と嘆かれていた。また、「日本国内にとどまらず、海外に踏み出す勇気を、もっと日本の学生に持ってほしい。」ともおっしゃっていた。今回初めて海外に行ってみて、世界に対する視野が確実に広がった。若いうちに海外に行くということはとても大切なことだと痛感した。国からもバックアップする体制を作ってもらえたら、もっと留学する人が増えるのではないかと思った。

国も世界も税金によって動いている。日本は世界から遅れているのではないかと思う点も感じた。日本をよりよくしてくため、「税金の集め方」と「税金の使い道」について、行政の努力をさらに期待したい。それとともに、私たちも無関心を装うことはやめて、自分のこととしてこれからも注視すべきだと思う。